

名古屋税関  
麻薬探知犬管理センター  
(営繕事業)

説 明 資 料

平成20年2月27日

営 繕 部

# 目 次

## ➤名古屋税関 麻薬探知犬管理センター 説明資料

1) 事業の目的及び建物の概要	1
・ 施設整備当時における社会的背景	
・ 税関の業務概要	
・ 麻薬探知犬管理センターの業務概要	
・ 事業の目的・位置	
・ 事業の概要	
・ 事業の整備状況	
・ 各種施策の内容	
立地条件を考慮した建物の耐久性及び保全性	
・ 各種施策によるLCCO2削減量	
2) 事後評価の項目	5
(1) 事業の効果	
① 費用便益分析（定量評価）	
② 工事費	
③ CASBEE指標評価（参考）	
④ その他の効果（定性評価）	
・ 業務を行うための基本的な機能の評価	
・ 施策に基づく付加的機能の評価	
・ 顧客満足度調査の結果●職員	
(2) 事業の妥当性	8
・ 評価指標の各項目に関する	
社会経済情勢等の状況確認	
・ 評価指標による評点の算出	
3) まとめ	9

# 名古屋税関麻薬探知犬管理センター

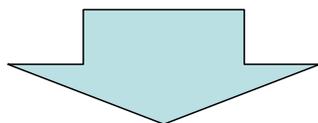
## 説明資料



### 1) 事業の目的及び建物の概要 施設整備当時における社会的背景

平成17年2月  
中部国際空港開港に向けての動き

平成9年	12月	平成10年度政府予算案で「中部国際空港」の新規事業化が認められる
平成10年	5月	運輸大臣が中部国際空港の基本計画を公示
平成12年	4月	運輸大臣が中部国際空港株式会社に飛行場設置許可
	8月	中部国際空港株式会社が護岸工事に着手
平成15年	2月	空港本体の埋立造成工事が概成



名古屋空港の税関機能を  
中部国際空港に移転する必要性が生じる



# 税関の業務概要

## 税関業務

### 監視

違法な貿易を防止するため、貨物や人の動き、或いは外国と往来する船舶や航空機を監視したり出入国する旅客の携帯品などの検査を行っています。また、違法行為の調査も行っています。

海上・空港パトロール

船内検査

麻薬探知犬検査

大型X線検査

:etc.

### 通関

貨物を輸出入しようとするときは、税関に申告してその許可を受ける必要があります。その申告が正しく行われているかどうか書類の審査や貨物の検査を行っています。

### 税務

輸入品にかかる関税や消費税などの徴収、外国貿易に従事する船舶のとん税や特別とん税(外国貿易船の開港への入港事実に対して課せられる税)の徴収を行っています。また適正な課税のため輸入者等に対する調査も行っています。

### 保税

貨物を輸出入しようとするときは、その貨物は必ず決められた場所に入れなければなりません。この場所を保税地域といいます。この保税地域の許可、監督を行うほか、保税地域に出し入れされる貨物の取締りも行っています。

輸入

輸出

## 麻薬探知犬管理センターの業務概要

文章・写真:財務省税関ホームページより

### 麻薬探知犬検査

麻薬探知犬は、全国の税関で入国旅客の携帯品及び外国郵便物等の輸入検査等に活用されており、導入以降、大量の覚せい剤、大麻等の不正薬物の摘発に貢献しています。

麻薬探知犬は、麻薬類が国内に入っていないよう、空港や港そして国際郵便局など様々な場所で活動しています。



▲入国検査場にて



▲税関検査場にて



▲国際郵便局にて

### 麻薬探知犬の訓練

一人前の麻薬探知犬になるためには、約4ヶ月の厳しい訓練を受け、認定試験に合格する必要があります。麻薬探知犬はこうした訓練を経て認定されます。



▲基本訓練  
埋蔵捜査  
(地中に埋めた麻薬を探す)



▲応用訓練  
壁面捜査  
(壁の隙間に隠された麻薬を探す)

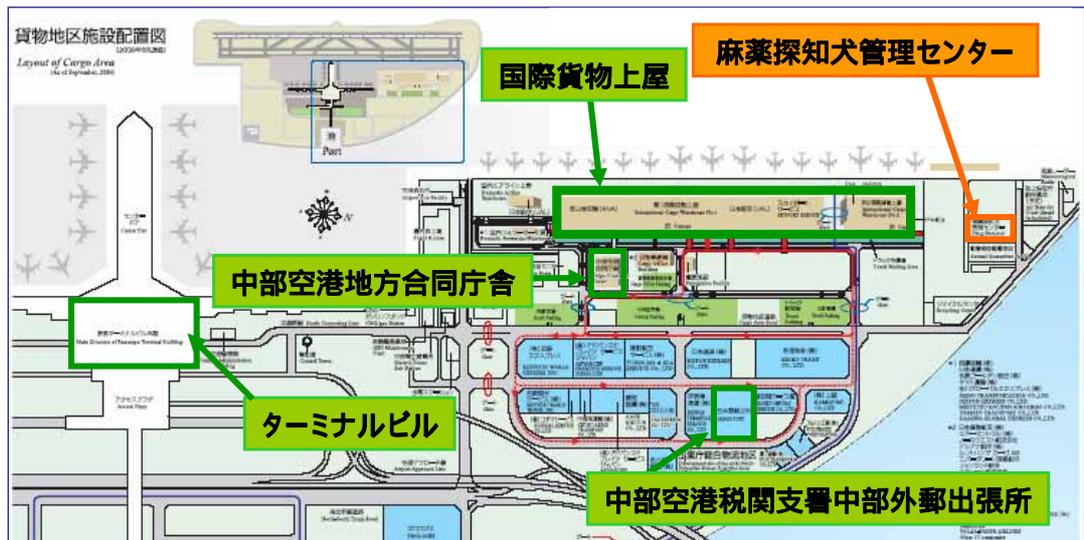


▲熟達訓練  
貨物捜査  
(輸入貨物を対象に実地訓練)

# 事業の目的・位置

1. 麻薬探知犬の良質な育成環境の整備
2. 業務の効率化に配慮した施設の整備
3. 麻薬探知犬の広報活動の推進に配慮した施設の整備
4. 立地環境・自然環境に配慮した施設の整備

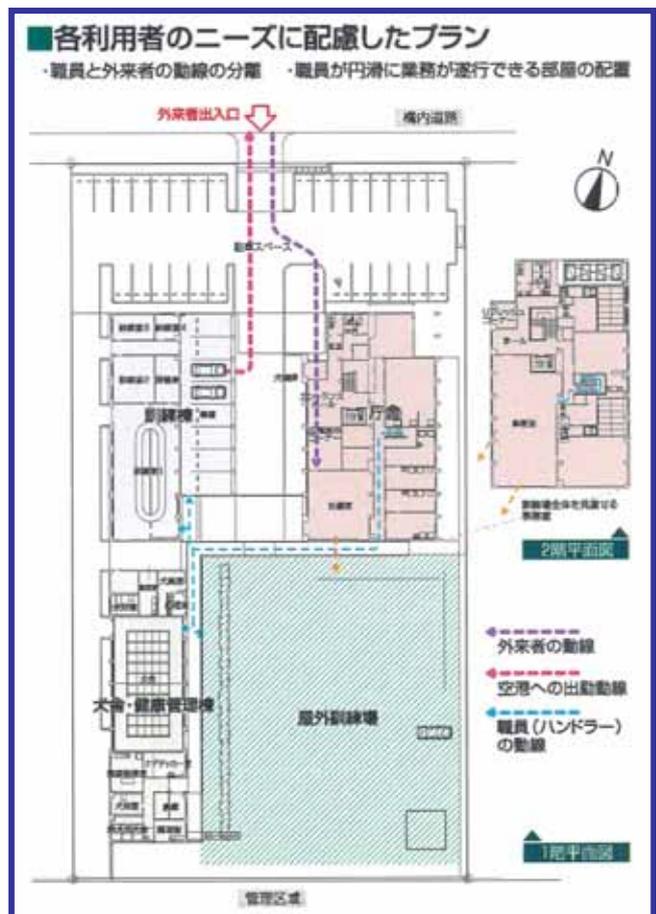
事業の位置



# 事業の概要

配置図

施設名	名古屋税関 麻薬探知犬管理センター
事業場所	愛知県常滑市セントレア1-2
施設概要	庁舎他 S-2、1 延べ面積計 1,804㎡
完成年度 (工期)	平成16年度 (平成16年2月～16年11月)
事業費	680百万円



# 事業の整備状況



訓練棟 訓練室 2



庁舎1F 事務室



屋外訓練場



犬舎



犬舎



犬浴室



庁舎1F 洗濯・乾燥室

## 各種施策の内容

### 立地条件を考慮した建物の耐久性及び保全性

プレキャスト・プレストレスト  
コンクリート圧着工法採用

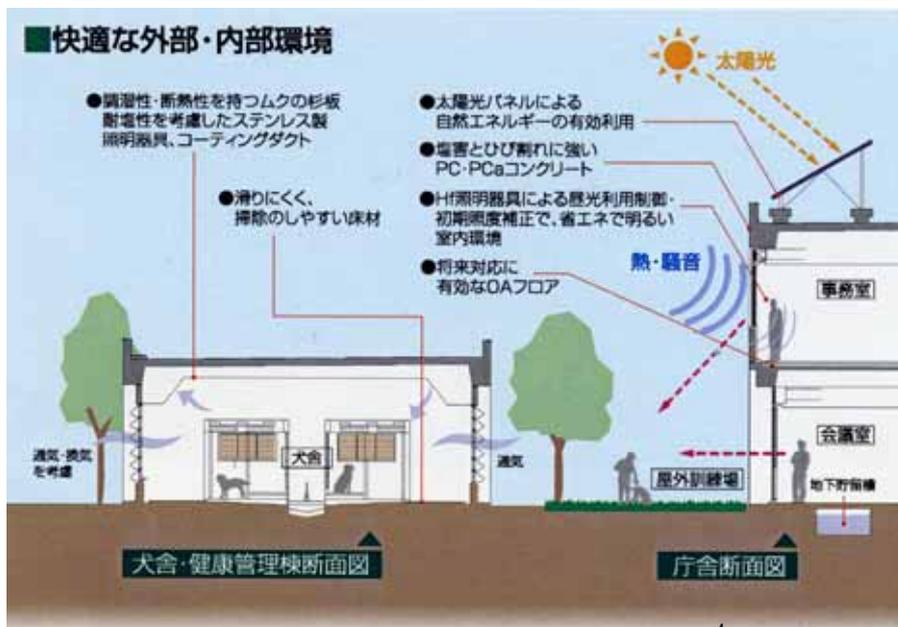
高耐久性の確保  
環境にやさしい工法の採用

日常管理と施設管理の  
しやすさ

通風、換気の徹底

自然エネルギーと水資源の  
有効利用

太陽光発電  
雨水利用



太陽光発電設備

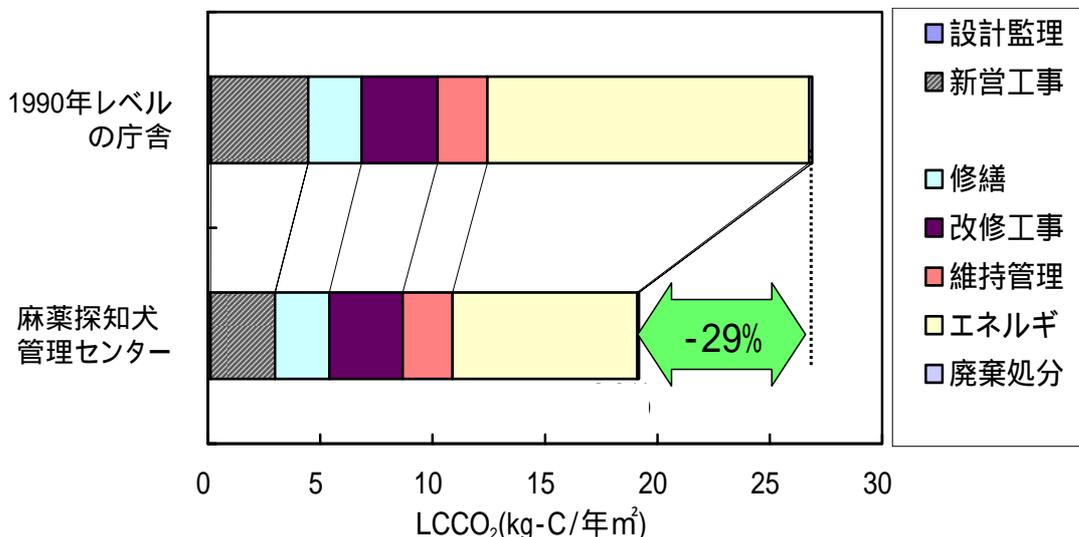


犬舎内部

# 各種施策によるLCCO<sub>2</sub>削減量

LCCO<sub>2</sub>: 建物の建設から運用、解体までの50年間のライフサイクルを通して排出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の量をいいます。この量で、建物が与える地球温暖化への影響を評価できます。

## LCCO<sub>2</sub>計算結果



## 2) 事後評価の項目

### (1) 事業の効果

#### 費用便益分析(定量評価)

名古屋税関麻薬探知犬管理センター

イ. 費用 C with

	現在価値化
1. 初期費用	<b>1,410,834</b>
(1) 建設費	736,497
(2) 企画・設計関係費	34,847
(3) 解体費	0
(4) 借地費用	639,490
2. 維持修繕費	<b>353,698</b>
(1) 修繕費	147,961
(2) 保全費	102,844
(3) 水道光熱費	102,893

費用 C with **1,764,532**

ロ. 費用 C without

	現在価値化
1. 維持修繕費	<b>209,387</b>
(1) 修繕費	142,838
(2) 保全費	34,265
(3) 水道光熱費	32,284

費用 C without **209,387**

(単位:千円)

ハ. 便益 B

	現在価値化	
1. 土地有効利用	<b>0</b>	
(1) 土地処分益	0	
2. 利用者の利便	<b>3,800,294</b>	
(1) 立地の改善	0	
(2) 建物性能の向上	3,800,294	賃貸費用から算定した効果
(3) 合同化による効果	0	
3. 安全の確保	<b>0</b>	
(1) 事故・災害の縮小	0	
4. 環境への配慮	<b>773</b>	
(1) 地球環境保全への寄与	773	LCCO <sub>2</sub> 排出削減効果
5. その他の効果	<b>111,350</b>	
(1) 駐車台数の増減	111,350	

総便益 **3,912,418**

$$\begin{aligned}
 B / C &= \text{総便益} \div \text{総費用}(C \text{ with} - C \text{ without}) \\
 &= 3,912 \text{ 百万円} \div (1,765 - 209) \text{ 百万円} \\
 &= 2.51
 \end{aligned}$$

# 工事費

項目	(内訳) (百万円)	工事費 (百万円)
1. 庁舎		452
2. 特殊な仕様	環境負荷低減対策	95
	太陽光発電設備	18
	照明制御、自動制御等設備	5
	バリアフリー対策	7
	多目的便所、EV	7
麻薬探知犬管理センターとしての付加機能	39	
犬舎・健康管理棟ユニット工事、木工事、特殊建具	39	
空港島に整備するための割増	26	
3. 外構整備		62
4. その他	仮設備分担金等	42
合計		651

	工事費	延べ面積	延べ面積 1㎡ 当たりの工事費
麻薬探知犬管理センター	452百万円	1,804㎡	約 25.1 万円
民間建築物			約 24.0 万円

建築着工統計から計算した民間発注の事務所ビル(RC造)の工事費の平均単価22万円/㎡に、公共建築物であれば同時に発注される工事(入居者実施分)の費用2万円/㎡を加えたもの

## CASBEE指標評価(参考)

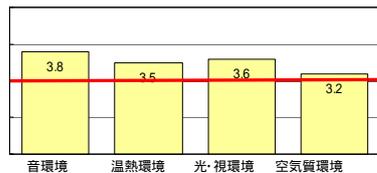
### (2)-1 環境性能評価結果 (バーチャート)

Q 建築物の環境品質・性能 (居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

SQ= 3.2

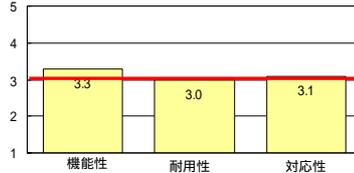
Q-1 室内環境

スコア(評価点): SQ1 = 3.5



Q-2 サービス性能

スコア(評価点): SQ2 = 3.1



Q-3 室外環境(敷地内)

スコア(評価点): SQ3 = 3.0

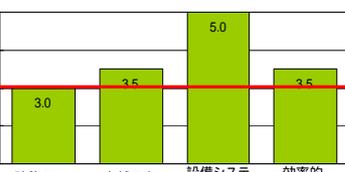


LR 建築物の環境負荷低減性 (環境負荷を低減させる性能評価)

SLR= 3.5

LR-1 エネルギー

スコア(評価点): SLR1 = 3.8



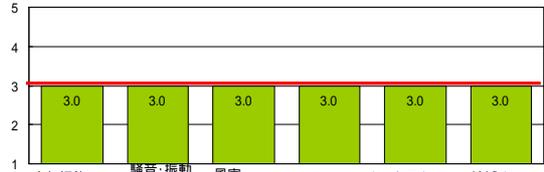
LR-2 資源・マテリアル

スコア(評価点): SLR2 = 3.7

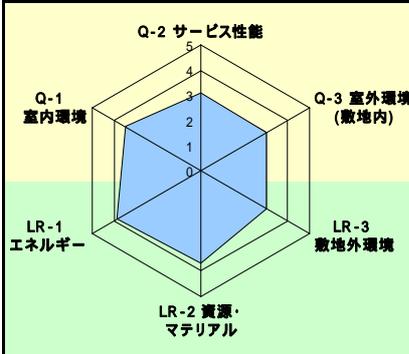


LR-3 敷地外環境

スコア(評価点): SLR3 = 3.0



### (2)-2 環境性能評価結果(レーダーチャート)



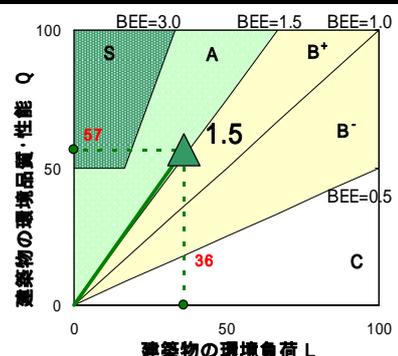
### (2)-3 環境性能効率

BEE

$$BEE = \frac{\text{建築物の環境品質・性能 } Q}{\text{建築物の環境負荷 } L}$$

$$= \frac{25 \times (SQ - 1)}{25 \times (5 - SLR)}$$

$$= \frac{56.6}{36.0} = 1.5$$



# その他の効果(定性評価)

## 業務を行うための基本的な機能の評価

### 機能の効果の例

麻薬探知犬の良質な育成環境の整備  
 訓練棟・犬舎・健康管理棟・屋外訓練場などを適切に整備した。  
 業務の効率化に配慮した施設の整備  
 訓練及び麻薬探知犬の管理に適した動線・平面計画とすることなどで業務の効率化を図った。  
 麻薬探知犬の広報活動の推進に配慮した施設の整備  
 税関モニター見学会(右写真)などが開かれている。



写真: 財務省税関ホームページより

### 施策に基づく付加的機能の評価

#### 施策の効果の例

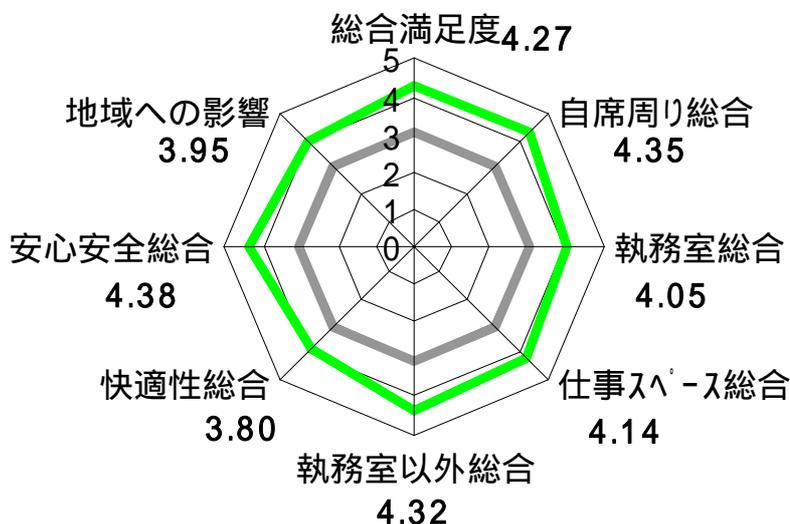
立地環境を考えた建物の耐久性及び保守性に対する配慮  
 風害・塩害・地盤沈下対策及びプレハブ化・乾式化等資材運搬にも配慮した。  
 環境保全性  
 太陽光発電設備、雨水利用設備、昼光利用・連動照明制御設備等の導入。  
 CASBEEの結果はAとなった。  
 ユニバーサルデザイン  
 多目的便所、身障用EVの採用

## 顧客満足度調査の結果

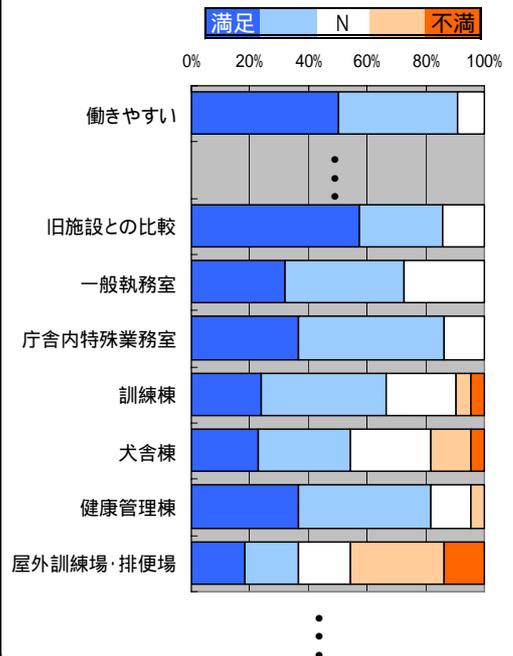
アンケート調査  
 回答数: 22名 / 全職員22名

### 職員

【総合的な項目】



【個別項目より抜粋】



## (2) 事業の妥当性

### 評価指標の各項目に関する社会経済情勢等の状況確認

新規採択時評価の指標を利用して事後評価における事業の妥当性を評価する。  
各項目についての状況を確認すると以下となる。

分類	項目	状況	係数
位置	用地取得の見込み	民有地を長期間借用可能	1.0
	災害防止・環境保全	自然条件が災害防止・環境保全において支障が無い	1.0
	アクセスの確保	周辺に道路等が整備済みである	1.1
	都市計画・土地利用計画等との整合性	都市計画等と整合がとれている	1.0
	敷地形状	敷地が有効に利用できる形状であり、安全・円滑に出入りできる構造の道路等に接している	1.0
規模	建築物の規模	業務内容等に応じ、適切な規模が設定されている	1.0
	敷地の規模	建築物の規模に応じ適切な規模となっている	1.0
構造	単独庁舎としての整備条件	単独庁舎としての整備が適当	1.0
	機能性等	標準的な構造として計画されている	1.0

### 評価指標による評点の算出

各項目の状況を指標に示し評点を算出すると以下の通りとなる。

     : 該当係数

分類	項目	係数					
		1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.5
位置	用地取得の見込み	取得済み又は現地建替	国有地の所轄替予定、公有地等の借用予定、建設までに用地取得の計画あり、又は民有地を長期間借用可能なもの			建設までの用地取得計画が不明確	敷地未定
	災害防止・環境保全	自然条件が災害防止・環境保全良好	自然条件の不備を技術的に解消できる			自然条件が災害防止・環境保全上やや支障がある	自然条件が災害防止・環境保全上著しい支障がある
	アクセスの確保	周辺に道路・鉄道等が整備済み	整備の見込みあり				整備の見込みなし
	都市計画・土地利用計画等との整合性	都市計画・土地利用計画等に積極的に貢献	都市計画等と整合	条件整備により都市計画等との整合が可能			都市計画等と整合しない
	敷地形状		敷地が有効に利用できる形状であり、安全・円滑に出入りできる構造の道路等に接している			敷地が有効に利用できない形状ではない	安全・円滑に出入りできる構造の道路等に接していない
規模	建築物の規模	業務内容等に応じ、適切な規模が設定され、敷地の高度利用について配慮している	業務内容等に応じ、適切な規模が設定されている			規模と業務内容等との関連が不明確	規模未定
	敷地の規模	駐車場、緑地等に必要面積が確保されている	建築物の規模に応じた適切な規模となっている	駐車場の確保に支障がある			
構造	単独庁舎、合同庁舎としての整備条件		単独庁舎としての整備が適当			合同庁舎計画との調整が必要	合同庁舎計画としての整備が必要
	機能性等	適切な構造、機能として計画されている	標準的な構造として計画されている、又は、特殊な施設に必要な機能等が満足される計画である			適切な構造、機能として計画されていない	標準的な構造が確保できないおそれがある、又は、特殊な施設に必要な機能等が満足されないおそれがある

**新規採択時評点: 100点**

**事後評価時評点: 110点**

**現在の社会経済情勢等に適合している。**

### 3)まとめ

名古屋税関麻薬探知犬管理センターは平成16年11月の事業完了後、3年が経過していることから、事業の効果及び妥当性を総合的に評価し以下の視点で対応方針原案を作成しました。

#### 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

・費用便益比(B / C)

事後評価時の投資効率性 = 2.5

#### 事業効果の発現状況

次のような効果の発現が認められます。

- ・麻薬探知犬の良質な育成環境の整備、業務の効率化が図られています。
- ・立地環境を考えた建物の耐久性及び保守性に対する配慮及び環境保全性に対して配慮するなど、官庁営繕としての施策が適切に実施されています。
- ・職員が建物全体の満足度について良いと評価しています。

#### 事業実施による環境の変化

・特にありません。

#### 社会経済情勢の変化

・特にありません。

### 対応方針（案）

#### 今後の事後評価の必要性

- ・事業効果の発現状況が概ね十分であり、社会経済情勢の変化にも適合していることから、事業の目的を果たしていると判断できるため、再度の事後評価の必要性はないと考えます。

#### 改善措置の必要性

- ・事業効果の発現状況が概ね十分であり、社会経済情勢の変化にも適合していることから、事業の目的を果たしていると判断できるため、改善措置の必要性はないと考えます。

#### 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- ・同種事業の計画・調査のあり方に関しては、当該事業の評価の結果、特に見直しの必要性はないと考えます。
- ・事業評価手法の見直しに関しては、引き続き検討を行っていく必要があると考えます。